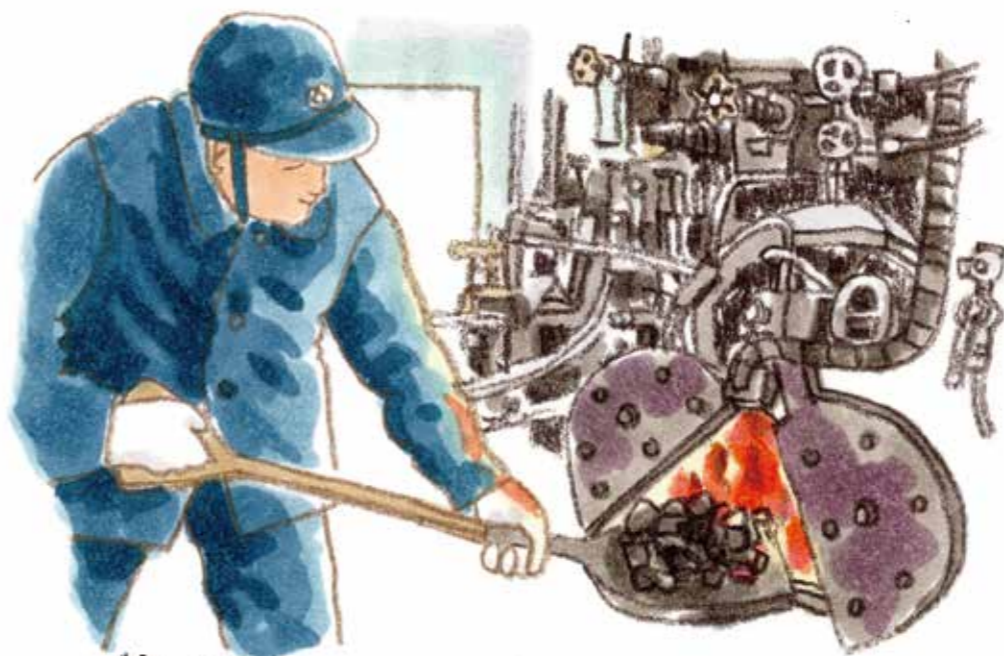


北海道に鉄道ができたのはなぜ？

北海道の中心部にある空知は、地下に良質な石炭がたくさんうまっている地域でした。石炭は燃えて高熱を生むので、燃料などに使われていました。一度に大量の石炭を運ぶために、1882(明治15)年、小樽の手宮と三笠の幌内炭鉱を結ぶ幌内鉄道ができました。



蒸気機関車は、石炭を燃やし、水をふっとうさせてできる蒸気で走るんだよ。

◆北海道で石炭がほられるきっかけは？

北海道で石炭が初めてほられたのは江戸時代。きっかけは、アメリカをはじめ、イギリス、フランス、ロシア、オランダと貿易をするようになったからです。それまで日本では、日本人が海外へ行くことも、外国船が港に入ることも禁じていました。箱館(現・函館)港が、横浜、長崎、新潟、神戸とともに、外国と貿易のできる港になると、外国船の燃料に使う石炭を用意する必要があったのです。



箱館港に初めてやって来た外国船 エカテリーナ号(俄羅斯船之圖)

そこで1857(安政4)年、白糠のシリエト岬(現・石炭岬)で道内初の石炭がほられました。また、箱館に近い岩内の茅沼炭山でもほられましたが、技術的にはまだまだ未熟でした。

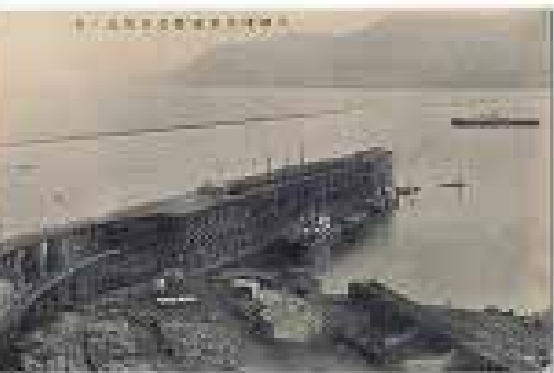
◆石炭を運び出す港は、なぜ小樽に決まったの？

空知でほられた石炭を運ぼうとしても当時はその手段がありませんでした。そこで室蘭まで鉄道をつくる案や、いまの岩見沢付近まで鉄道で運び、その後は石狩川を利用して船で運ぶ案も考えられました。

しかし、室蘭まで工事するにはお金がたくさん必要で、石狩川は雪解け水による氾らんが心配されました。

アメリカからやって来た鉄道の専門家クロフォードは、空知から小樽まで安く、しかも短期間で鉄道ができると提案し、1880(明治13)年には手宮

札幌間が開通。その後、松本壮一郎が中心となり、1882(明治15)年、幌内鉄道が完成しました。



石炭が積み出されていた時代の小樽。手宮高架棧橋(小樽市総合博物館所蔵)

もっと知りたい！「鉄道一小樽市総合博物館本館」

小樽市総合博物館本館には、北海道に鉄道ができる時代の資料をはじめ、蒸気機関車や鉄道施設などが展示されています。



小樽市手宮1丁目3-6 TEL:0134-33-2523

幌内鉄道を走った蒸気機関車「しづか」号

北海道最初の鉄道「幌内鉄道」を走った蒸気機関車「しづか号」。その後ろに展示されている一等客車「い1号」の内部も見学できます。

蒸気機関車の時代を見てみよう 国指定重要文化財「旧手宮鉄道施設」

「炭鉄港」の中でただ一つの国指定重要文化財。国内に残っている機関車用の車庫では一番古い機関車庫三号、蒸気機関車をのせて方向を変える転車台などがあり、実際に蒸気機関車を動かしています。